

富士紀行(24) 富士学校の校風

富士学校の校風は「明朗闊達和楽の間に進んで難局に当たる」である。この校風は初代校長杉田一次陸将が提唱され、現在に至るも脈々として継承されている。

その心を杉田校長は開校式校長訓示の中で次のように述べておられる。「・・・標高3,776 呎を算する富士の霊峰は我々の前に立っている。富士は我々が立っている足下の一粒一粒の砂の重なりより成っているのである。この一粒一粒の力がこの立派な気高い富士山を作り上げている。我々はこの富士山を師表と仰ぎその目指す理想に向かって一步一步地道に歩を進めていこうではないか。我々は富士山の如く明朗高潔で富士山の如く闊達剛毅でありたい。国民が鑑賞して自ら心和する富士山の如く自衛隊の人々にとって富士学校をして心の母校としたいものである。

また、風の日も、雪の日も、嵐の日も毅然たる霊峰富士の如く我々は世論に惑わず政治に関わらず「進んで難局に当たって」その使命に邁進しようではないか。自衛隊の隊員一人一人に活を入れ新鮮な空気を流し込むのは我々富士山麓にある者の責務であるまいか。私は諸君の共感を得て「明朗・闊達、和楽の間に進んで難局に当たる」美風を樹立し、以て我々が愛する富士学校の校風としようではないか。また、永くこれを後世に伝えようではないか。我々の残すべきものは威風堂々たる学校そのものではなくこの良き校風でなければならない。我々の誇り得るものはこの風光明媚な富士の土地そのものではなく学校を出ていく者の精神的内容の充実でなければならない。

良き校風の樹立と内容の樹立と充実は開校当初より学校に籍を置く我々の責任であり、義務である。また、我々のみが持つ特権でもある。創業の任に当たる我々の任務は誠に重、且つ大である。私は諸君と共にこの大任を完遂することを神に誓うと共に神の加護によってこれが完遂を確信するものである。・・・」と。